

日本大学

《 日本大学の教育理念 》
「自主創造」

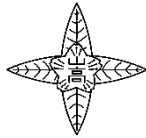
《 日本大学教育憲章 》

●日本大学マインド

- 1 日本の特質を理解し伝える力
- 2 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
- 3 社会に貢献する姿勢

●教育理念

- 「自主創造」の
3つの構成要素
- 1 「自ら学ぶ」
 - 2 「自ら考える」
 - 3 「自ら道をひらく」



「令和7年度
学校経営・運営ビジョン」

日本大学山形高等学校

知育 徳育 体育

日本大学山形高等学校

《 教育の目的 》

本校は、教育基本法及び学校教育法の趣旨にしたがい、心身の発達に応じて人間として調和のとれた生徒の育成を目指し、中学校の課程における教育の成果を更に発展拡充させるべく、高等普通教育を施すことを目的とする。

《 教育方針 》

- 1 「**知育**」自ら真剣に学習し、知識を高め、深い教養を身につけるよう努める。
- 2 「**徳育**」豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う。
- 3 「**体育**」心身を鍛錬し、いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う

良き習慣を身に付け、常に高い目標を持ち、その目標の達成のために何事にも積極的に取り組み、進むべき道を自ら切り開いていく

I 授業力の向上と学習習慣の確立

1 授業力の向上

- ① チャイムとともに授業を始め、チャイムとともに授業を終えることで50分の授業の中で効果的な学習内容の定着を行う。
- ② 習熟度別授業・課外授業を推進する。
- ③ ICT教育をより発展的に推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けていく。
- ④ 公開授業を推進するとともに、外部研修を活用し、教員自らの授業力向上を図ることで、多様な大学入学者選抜に対応していく。
- ⑤ 入試問題の研究に努め、大学入試につながる定期考査の内容や難易度の改善を行う。
- ⑥ 模擬試験の分析結果を踏まえ、担任及び教科担当者が情報を共有し、学習内容の重点化等、授業の改善を図る。
- ⑦ 各教科で生徒の進路を見据えた効果的な学習指導を行う。

2 学習意欲の向上と学習習慣の確立

- ① 家庭学習を習慣化させるとともに、主体的で、能動的な学習習慣を身につけさせる。
- ② 予習・復習の重要性とその方法を授業で十分に理解させるとともに、定期的に予習や復習の方法の確認を行う。
- ③ 授業や家庭学習教材を吟味し、日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テスト、一般選抜に合わせた学力養成に努める。また、学校推薦型選抜、総合型選抜に対応した指導に努める。
- ④ 保護者との連携を密にし、進路意識の高揚と家庭学習の促進を図る。

3 キャリア教育の工夫

- ① 総合的な探究の時間によって、主体的に自己の生き方を考えていく資質・能力を育成することを目指す。
- ② 卒業生による合格体験記・講話等により学習方法を考えさせるとともに、学校行事「進路説明会」や大学のオープンキャンパスなどをおして、自らが歩むキャリアや働き方を見極めさせ、進路意識の高揚を図る。

4 生徒の発達段階に応じた面談の工夫

- ① 二者・三者面接を契機として、生徒の学習・生活状況から、キャリア発達に基づく出口を見据えた適切なアドバイスを行う。

II 心に響く・生徒と向き合う生徒指導の実践

1 基本的な生活習慣の確立 ※「凡事徹底」

- ① 教員・生徒ともに挨拶を励行する。
- ② 遅刻防止・服装頭髮の指導を徹底し、自律的で基本的な生活習慣を確立する。
- ③ 携帯電話の使用マナーを徹底するために、生徒の自覚を促すとともに、保護者の協力を得る。
- ④ 授業、特別活動、部活動とも生徒指導の最適な機会と捉え、共通理解に基づいた積極的な指導にあたる。

2 健康な心の育成

- ① 不登校や学校不適応等の兆候を早期に把握し、保健衛生部（生徒生活支援係）及び生活指導部を中心として学年で情報の共有化を図るとともに、カウンセラーとの連携と共に生徒や保護者との教育相談やカウンセリング等を積極的に行う。

3 安全対策の推進

- ① 生徒が事件・事故等に巻き込まれぬよう、生活指導部を中心に情報の共有化を図るとともに、Classiにより注意喚起の情報を適宜発信する。
- ② いじめ発見調査アンケートの活用により、その兆候を早期に発見し、全教職員が共通理解を持って対応する。

4 主体的で、協働的な活動の育成

- ① 部活動や生徒会活動などで他者と協働しながら主体的に課題を解決する態度を育成する。
- ② 地域でのボランティア活動など、社会活動への主体的で協働的な参加を促し、自己肯定感や達成感、社会貢献への意欲を図る。

III 魅力ある学校づくりの推進

1 保護者や地域、大学、諸団体との連携推進

- ① 新入生の移行期の教育活動に資するため、中学校との連携を密に図る。
- ② 保護者会総会・学年会、進路説明会等への保護者や関係者の積極的な参加を促す。
- ③ 地域や中学校に、本校の魅力や教育活動を伝えるためホームページを充実させる。
- ④ 魅力的な学校案内を作成するとともに、学校説明会をととして本校の魅力や特色を発信する。
- ⑤ 保護者会・同窓会・日本大学校友会と連携を図りながら、キャリア教育、生徒募集等を充実させる。
- ⑥ 日本大学及び他大学及び諸団体学と連携しながら、探究的な学びや進路指導体制を強化する。

2 カリキュラムマネジメントの推進

- ① 生徒の進路希望の実現のためカリキュラムが効果的なものとなるよう、常に教育改善のPDCAサイクル等を構築し改善を図る。
- ② 新学習指導要領のもと多様な進路希望対応する教育活動を行う。また、次期学習要領の改訂に向けた研修を行う。
- ③ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた研究（持続可能な開発のための教育（ESD））を推進する。

3 教育活動環境の整備

- ① 教室内の整理・整頓、校舎内外の清掃を徹底し、学習に集中できる環境を整える。
- ② 施設・設備の点検や整備を常に行い、安全で安心して学ぶことのできる教育環境を整備する。

4 危機の未然防止と対応

- ① 学校において発生する様々な危機から、生徒及び教職員等の安全の確保を図るために危機の未然防止に努める。
- ② 危機が発生した場合は『危機管理マニュアル』によって対応する。
- ③ 事後の危機管理として、校内の体制の点検・再構成、『危機管理マニュアル』の見直しを図り、再発防止に努める。

志を高く持ち、常に高みを目指す＝情熱(Passion)×使命感(mission)×行動力(action)＝ 未来の夢の扉を開く

◎「志を高く持ち、未来の夢の扉を開く」

※目標が高ければ、実現するものも、また高くなる」何かを達成したら、次の高い目標に照準をあて、努力することが重要であり、常に高みを目指し、高い目標を達成し、夢の実現を目指す。

◎「凡事徹底」

※当たり前のことを人が真似できないくらい徹底して実践し、平凡を非凡に努める。
当たり前の良い習慣を継続する「凡事徹底」は、目標や夢を実現するための土台となる。